

団体名 東京都生物教育研究会

団体の概要 東京都の高等学校の教員を中心に、862名の会員からなり、生物教育の充実を図るとともに、教員相互の情報交換を活性化するため、支部・総務部・編集部・研究部・委員会に組織を分担し、活動している。総会と教職員研修センターとの連携研修を年に1回、研究部の研修会を毎月1回、各支部の研修会を年に2回、教材開発委員会・生態学教育委員会・海洋生物研究委員会・教育課程委員会・社会連携委員会の各委員会主催の研修会を年に2回程実施しており、活動記録は都生研会誌として発行している。また、毎年、日本生物教育会や日本生物教育学会等における全国大会での発表を行うとともに、全国の生物教育研究会との連携も定期的に行い、日本の生物教育の向上を目指して活動している。

研究テーマ 主体的・対話的で深い学びへとつながる、授業で行う探究活動の指導法の研究及びその評価について

研究のねらい 生徒の主体的・対話的で深い学びの実践に向け、理科の見方・考え方を働かせた探究活動の指導力、多様な校種及び生徒の実態に合わせた展開・汎用力を向上させる。またその評価について研究する。

研究の内容 教材開発、フィールド調査、実験講習、研究協議会等、年間20回以上の研修会企画、大学や国立科学博物館などの研究機関との連携による教材開発、高大連携研修、及び最新研究講演会の開催をとおして、教員の指導力向上につなげる。

研修会一覧(活動報告) 日付・テーマ・参加人数(対面「対」、オンライン「オ」)

【全体総会】 ・講師(都立教諭以外の場合のみ記載)
 7/4 都生研総会(写真1) 対・オ 計54名
 記念講演「動物言語学の創出～科学でせまる野鳥の会話～」
 講師：鈴木俊真 博士(京都大学)

【1・2支部】支部総会 オ31名
 【3・4支部】支部総会 オ19名
 【5・6支部】支部総会 オ10名
 「PCR」研究協議 オ

【多摩支部】
 6/26 多摩南北支部総会 オ5名
 11/14 八国山観察会 対8名

【研究部】
 ・研究協議会
 4/18 第2回「1年間を見通した授業デザインの方法」 オ9名
 4/24 第3回「ブタの胎児の解剖実習」 オ13名
 5/29 第6回「すぐに実践したくなる授業教材の紹介 植生/生態系編」 オ10名
 6/12 第7回「教材生物の飼育法及び活用法に関する研究協議」 オ17名
 7/2 第8回「日本生物教育学会第105回全国大会 アンコール発表会」 オ31名
 8/29 第9回「黒目川・落合川の生態系観察」 オ11名
 10/15 第11回「生物基礎での植物の特徴を見分ける生徒実習」 対8名
 10/21 第12回「ブタ頭部を用いた脳の観察@都立国立高等学校」 対16名
 10/23 第13回「探究活動でのテーマ設定の指導/支援方法」 オ15名
 11/6 第14回「観点別評価をとり入れた生物の授業」 オ25名
 11/18 第15回「ホヤ胚の観察から発生と進化を学ぶ生徒実習」 対10名
 11/27 第16回「ブタ頭部・鶏頭を用いた脳の観察@都立本所高等学校」 対15名
 6/4、11、18、25、7/1、9、16 ウィークリー研究協議会 計60名
 (第1回、第4回、第5回、第10回は感染症拡大防止のため中止とした)

・教育課程委員会主催
 9/7・9/21・10/12・10/28・11/9 (全5回)
 「新課程 生物基礎のカリキュラム・授業方法を考える」 計65名

・生態学教育研究会
 10/24「里山の教育利用」に関する研究協議会 対15名
 11/13「生態分野の探究」についての研究協議会・教材配布会 対15名

・海洋生物研究委員会主催
 7/31「海水水槽の維持管理・海水魚の正しい飼育法」 対13名

・社会連携委員会主催
 8/14「ボルネオ島スタディツアー&サステナブル・ラベルスクール」 オ150名
 9/18「生物学で未来を考える」 オ100名

【他団体との共催企画】
 ・公益財団法人藤原ナチュラヒストリー振興財団設立40周年記念・東京都生物教育研究会共催 「ムササビとムササビの棲む森を見よう！」 対22名
 ・日本生物教育会共催「新学習指導要領における評価に関するシンポジウム」についての研究協議会 オ125名

【全国大会関係】
 8/6、7 日本生物教育会長野大会@オンライン 東京都生物教育研究会支援 オ328名

【連携研修】
 9/28午後(オ)、11/4午後(対面)の計2回実施
 理科I(中・高・特) 対29名 講師：武村 政春(東京理科大学教授)



写真1 都生研総会、ハイブリッド開催の様子

研究の成果と課題

◆研究の成果
 ・実施した研修会
 感染予防対策をとった上での対面研修会及びオンライン研修会 計41回

・研修会参加者 総合計1,229名

・【研究部】参加者アンケート
 (研究部の研究協議会にて実施した参加者アンケートを4点満点で集計したものである)

研修満足度	平均 3.90
研修理解度	平均 3.72
研修活力度	平均 3.75

・オンラインで行った解剖実習では、参加者が最前列にいるような見え方で進めることができ、新たな利点を見出すことができた。

・各所属校の生物実験室からオンラインで研修に参加し、実際実験室にある道具を用いてその場で観察・実験を行う、同期実験講習及び研究協議を行うことができた。

・オンラインでは、対面では参加できないような遠隔地から新規の参加があり、研修の機会を提供することができた。

・参加人数を制限し、感染症対策を行った上での対面研修は、実物を扱うことによって実際の授業でどのように活用するかをより具体的に想定することができ、実践的な経験を積める研修となった。

・令和4年度より施行される観点別評価について、文部科学省調査官による講演会、学習会及び実践報告会を開催し、研究協議会を行った。

◆課題
 ・オンラインで開催が難しい観察・実験の研修会は、社会情勢により中止せざるを得ないことがあったので、今後工夫する必要がある。

・「指導と評価の一体化に向けて」の研究協議は活発であったが、実践例が少ないので、今後も協議を継続していく。

以上により、今後もオンライン、対面研修の双方の利点を生かした研修会を開催する。また、評価の在り方についても、研究を継続する。

今後の予定 引き続き12月～3月に11の研修会を実施予定であり、年度末に都生研会誌の編集を行い、令和4年度7月に発行を行う予定である。また、来年度の研修会の企画準備と同時に、令和6年度実施予定の日本生物教育会全国大会東京大会に向けて、研修会の充実及び高大連携、教員同士のつながりを維持し、発展させていく予定である。

代表者連絡 **代表・会長** 都立浅草高等学校 校長 内田 隆志 **事務局** 都立小石川中等教育学校 教諭 佐野 寛子
 Hiroko_Sano@education.metro.tokyo.jp